

指定管理施設事業評価票(令和6年度分)

1. 施設所管課 教育委員会事務局生涯学習課

2. 指定管理施設概要

施設名	名称	日光市小杉放菴記念日光美術館				
	所在地	日光市山内2388番地3				
指定管理者	名称	公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館				
	代表者名	理事長 関 孝和				
	住所	日光市山内2388番地3				
指定期間		令和6年4月1日 ~ 令和11年3月31日			5年間	
選定方法		公募 ・ 非公募		評価実施年	5年間のうち 1年目	
施設設置目的		日光市ゆかりの画家小杉放菴を中心とした美術作品及び資料の収集、展示等を行い、市民の美術に関する知識と教養の向上を図り、文化の振興発展に寄与する。				
主な実施事業		・小杉放菴の作品をはじめとする美術品等の展示、収集、保管、貸出、調査研究に関する業務 ・教育普及に関する業務 ・美術館の利用許可に関する業務 ・美術品等の保管に関する業務 ・美術館の利用料金等の徴収に関する業務				

3. 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	入館者数	人	10,150	10,839								
b	アンケートの実施(満足度)	%	80.0	94.8								
c	入館料	円	4,022,000	4,248,350								
d												
e												

4. 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:円)

区分		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
収入計 A		77,348,570	0	0	0	0
	指定管理料	65,370,000				
	利用料収入 C	4,248,350				
	自主事業収入	499,250				
	その他	7,230,970				
支出計 B		78,409,909	0	0	0	0
	指定事業費	77,199,409				
	内人件費 D	30,686,417				
	内外部委託費 E	46,512,992				
	自主事業費	1,210,500				
事業収支 A-B		-1,061,339	0	0	0	0
人件費率 D/B		39.14%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
外部委託比率 E/B		59.32%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※着色セルは、自動計算としている。

補足説明	

サービス改善の状況

・美術館展覧会情報の他、付近の交通情報や降雪状況などをタイムリーにSNS上で発信した。
・感染症対策としてパーティションや消毒液の継続設置、職員のマスク着用のほか、定期的に清拭による除菌を行った。

5. 管理運営状況

評価項目		評価基準	指定管理者 自己評価	施設所管課 評価
① サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。 必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B
	外部委託	事業計画に即し、計画的に研修等を年1回実施している。 外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	B	B
	法令遵守等	外部委託業者に対して、協定書等を遵守させている。	B	B
	個人情報保護	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。 個人情報保護に関する法令を遵守している。	B	B
	情報公開	個人情報の漏えい、滅失等の事故防止策に対する研修を年1回行っている。 情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされている。	B	B
	管理記録	協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。 業務日誌等を適切に整備、保管している。	B	B
	連絡調整	点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。 協定書に従い、各報告書等を、市に提出している。	B	B
	緊急対応	市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。 事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	B	B
	総括	緊急時のマニュアルが整備され、年1回訓練を行っている。 避難経路が適切に確保されている。	B	B
		「業務の実施体制」に関する評価【17項目】	B	B
② サービスの質の評価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。 事故防止及び安全確保のための研修を年1回行っている。	B	B
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。 利用者に対して、設備、備品等を適切に提供している。	B	B
	事業運営	言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。 事業計画に即し、受託事業を実施している。	B	B
	維持管理	施設の目的に沿った自主事業を実施している。 事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	B	B
	環境配慮	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理等を適切に行っている。 仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	B	B
	広報活動	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。 協定書に従い、適切に修繕を行っている。	B	B
	苦情等対応	環境配慮率選考計画取組点検表において、(1)が取組項目の2/3に達している。 事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	B	B
	利用者アンケート	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。 要望、苦情等を整理し、市に報告している。	B	B
	利用状況	利用者アンケート調査を実施し、その結果が妥当である。	B	B
	総括	利用実績は、目標水準である。	B	B
③ 安定性	経理事務	「業務の内容・水準」に関する評価【18項目】	B	B
	予算執行	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	B	B
	経費削減	収支予算書の範囲内で適正に予算執行している。	B	B
	収支状況	経費が削減され、又は削減に向けた努力を行っている。	B	B
	総括	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	B	B
		「経費の収支等」に関する評価【4項目】	B	B
所見 (成果・課題等)	(指定管理者自己評価) 【成果】 1 企画展の開催 ・春の企画展として、動物たちの姿を木彫りで表現する肖像彫刻家「はしもとみお展 時を刻むいきものたち」を開催した。関連イベントとして、はしもと氏本人が講師となり、制作の背景などのギャラリートークや木彫りブローチづくりを体験するワークショップ、本人も参加する楽団「はしもとみお with 間を奏でる」によるスペシャルコンサートを実施した。 ・秋の企画展として、地元日光に生まれ育ち、地元の風景を水彩画で描いた「生誕100年記念 古橋義朗展」(株式会社下野新聞社共催事業)。関連イベントとして、日光スケッチ同好会で指導を受けていた岩本佳子氏に古橋作品の魅力や人柄を語ってもらうクロストークを開催した。 また、エントランスホールにおいて、かつて当地に存在し、放電や義朗も学んだ日光小学校の沿革を紹介するとともに、イワツバメの飛来する学校として映画撮影されたDVD作品を上映するミニ展示「日光小学校の歴史とイワツバメ」を開催した。 2 教育普及事業の実施 ・一般を対象とした絵画鑑賞会を12回、展覧会に関するギャラリートークを11回、クロストークを1回、講演会を1回、夏休み水彩画教室を4回、ワークショップを3回開催した。567人参加(R5=395人) ・学校児童生徒等を対象とした絵画鑑賞教室やワークショップについて、市内4校、1センター、市外6校(うち夜間開館3校)が来館した。396人参加(R5=市内4校、1団体、市外8校(うち夜間開館3校)、497人) ・エントランスホールを活用した舞台芸術鑑賞事業としてコンサートを7回開催した。411人参加(R5=317人) ・学校との関連事業として、インターンシップを3人、博物館実習生を3人受け入れ(R5=4人)、市内小中学校を対象とした移動美術展及び出前授業について、4校95人に実施した(R5=2校645人)。 3 舞台芸術鑑賞事業の実施 ・美術だけでなく、さまざまな芸術文化の催しに触れる機会を提供する舞台芸術等鑑賞事業として、クラシックなどの音楽ステージや正月特別開館に合わせた邦楽の生演奏等を開催した。 4 地域連携事業 ・今市地域の「日光市ふくろうの森手塚登久夫彫館」において、今市地区まちづくり協議会の情報発信として「まちあるき」として石彫館を案内しその一助を担った。 ・日光ユネスコ協会主催の「わたしのまちのたからもの」絵画展や「人権尊重啓発ポスター」作品に係る審査会への出席等、地域の事業に貢献し協力した。 5 利便性の向上 ・美術館展覧会情報の他、付近の交通情報や降雪状況などをタイムリーにSNS上で発信した。 6 経費削減 ・空調や室内灯の電源の入り切りをスベリース毎に管理するなど、節電等に努め経費削減を図った。 7 安全対策 ・感染症対策としてバーテーションや消毒液の継続設置、職員のマスク着用のほか、定期的に清拭による除菌を行った。 【課題】 1. 美術に関する教育普及事業における児童生徒の利用促進 児童生徒が興味関心の持てる美術鑑賞教室が提供できるよう、各学校へ個別にPRを積極的に行うほか、ワークショップの内容の充実を図り教育普及に努める。 2. 舞台芸術鑑賞事業の充実 利用者のニーズを踏まえ、様々な分野のテーマをバランス良く取り上げ、安全対策を図りながら、引き続き、質の高い舞台芸術鑑賞の機会を企画するとともに、地域で活動するアーティストを積極的に活用する。			
	(所管課評価) 【成果】 ・日光市ゆかりの画家小杉放菴を中心とした展覧会を開催した他、美術作品及び資料の収集補助業務及び教育普及事業等を行い、市民の美術に関する知識と教養の向上を図り、文化の振興発展に寄与した。 ・入館者数が10,839人であり、目標値を上回った。入館料4,248,350円の収入実績と前年度比145.86%増であった。ショップ等の売り上げを加え総収入は77,348,570円あり、前年度比28.21%増(前年度:60,328,941円、差額:17,019,629円増)となるなど成果があったと捉えている。 【課題】 ・学校を対象に行う美術鑑賞教室をPRするにあたり、各学校の予定などの調整、及びバスの手配など理解を求める工夫が必要である。			
前年度総合評価		B(良好)	総合評価	B(良好)

※評価区分

評価基準	A(優良) = 協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。 B(良好) = 協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。 C(要改善) = 一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。		
※施設所管課は、指定管理者に対するモニタリングや事業報告書の内容等を踏まえ、評価します。			
※数値が記載されているものに関しては、数値目標達成がB評価となります。			
総括評価	A(優良) = 評価項目のうち、A判定が80%以上 B(良好) = A、C以外 C(要改善) = 評価項目のうち、C判定が20%以上	総合評価	A(優良) = 自己評価、所管評価の「総括」にCが含まれず、かつAが4つ以上ある。 B(良好) = A、C以外 C(要改善) = 自己評価、所管評価の「総括」にCが2つ以上含まれる。